

平成25年度入学試験問題（前期日程）

小 論 文

教育学部 生涯教育課程 沖縄島嶼教育コース

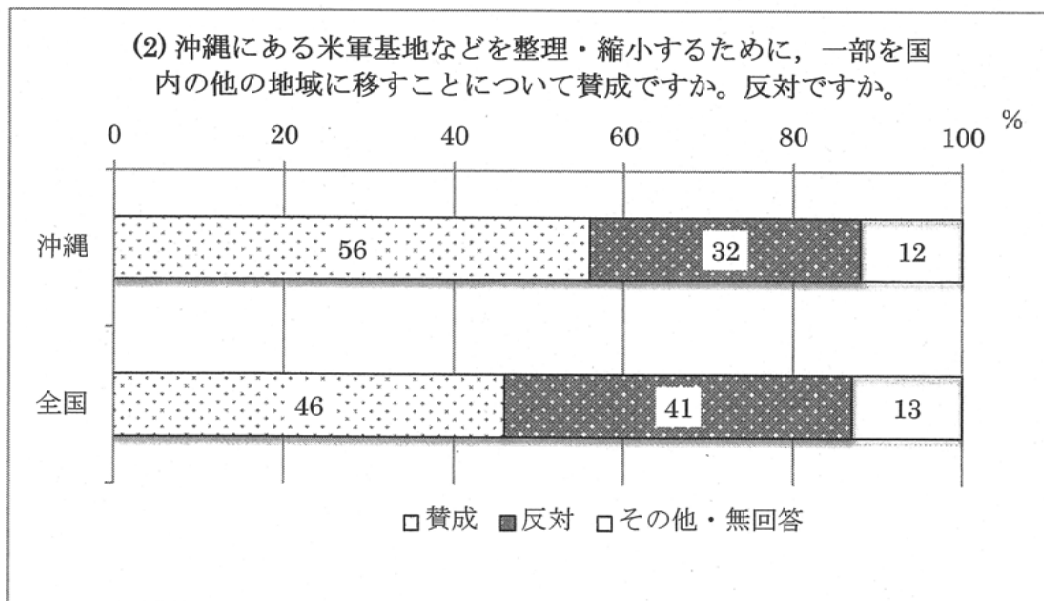
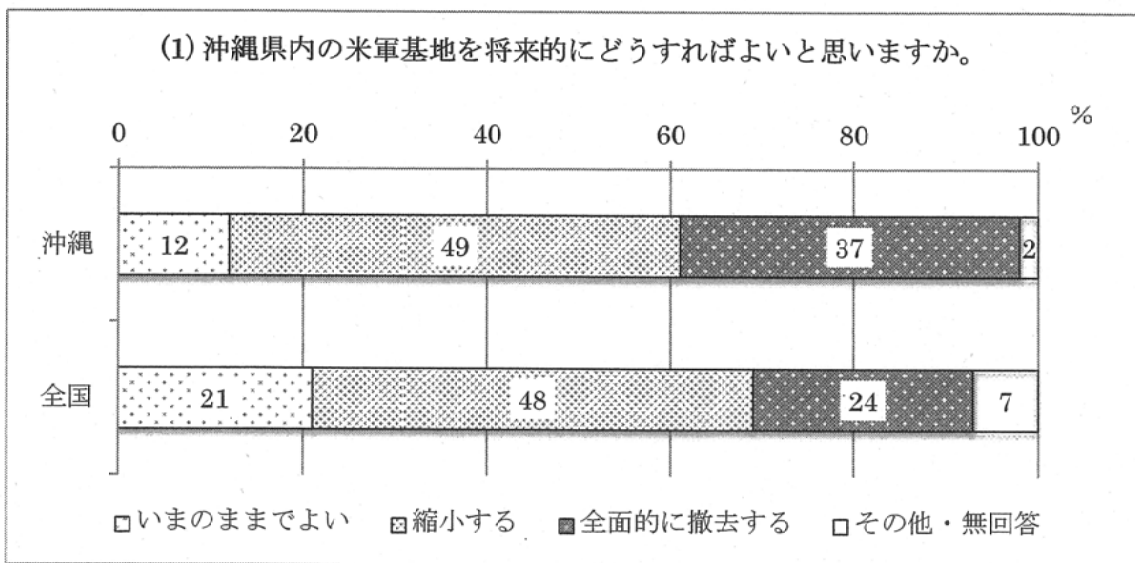
注 意 事 項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないように注意すること。
4. 解答時間は、120 分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

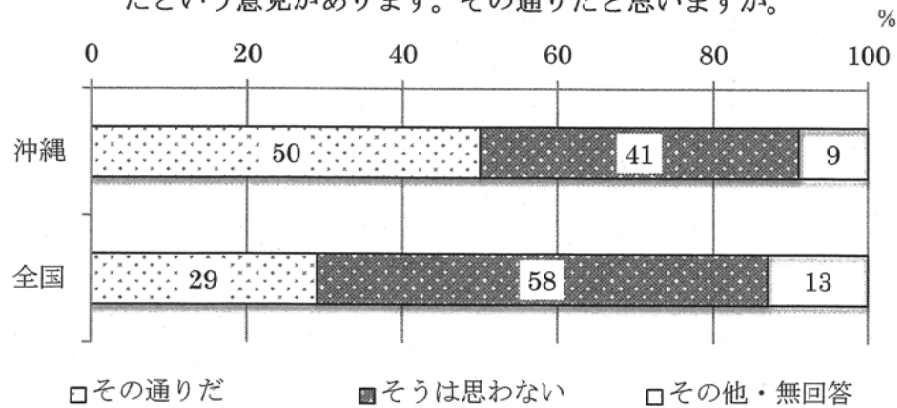
1

2012年5月15日の沖縄の「本土復帰」満40年を迎えるに当たり、新聞社による2つの世論調査が行われた。そのうちのひとつは、沖縄タイムス社・朝日新聞社による共同調査で、(1)～(5)はその結果の一部である（(1) (2) (3)は、沖縄の人びとと全国の人びとの意識の比較を、(4) (5)は沖縄の人びとの意識を示している）。もうひとつは、琉球新報社・毎日新聞社の共同調査で、(6) (7)がその結果の一部である。

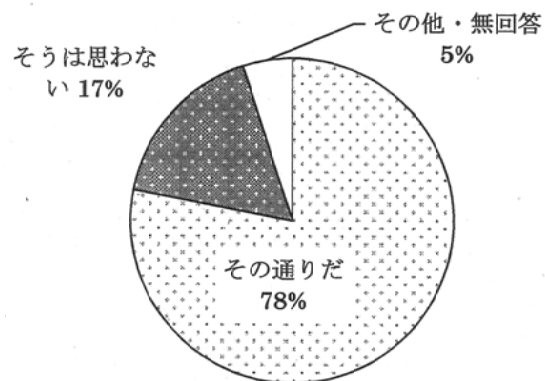
これら(1)～(7)のうちいくつかを関連づけて、そこから読み取れることを述べなさい。（400字程度）



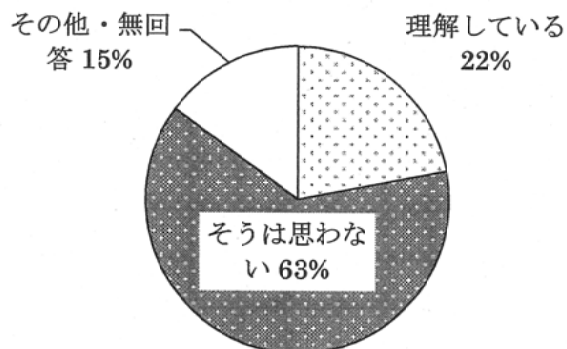
(3) 沖縄には在日米軍の基地や施設の74%が集中しています。沖縄の基地が減らないのは本土による沖縄への差別だという意見があります。その通りだと思いますか。

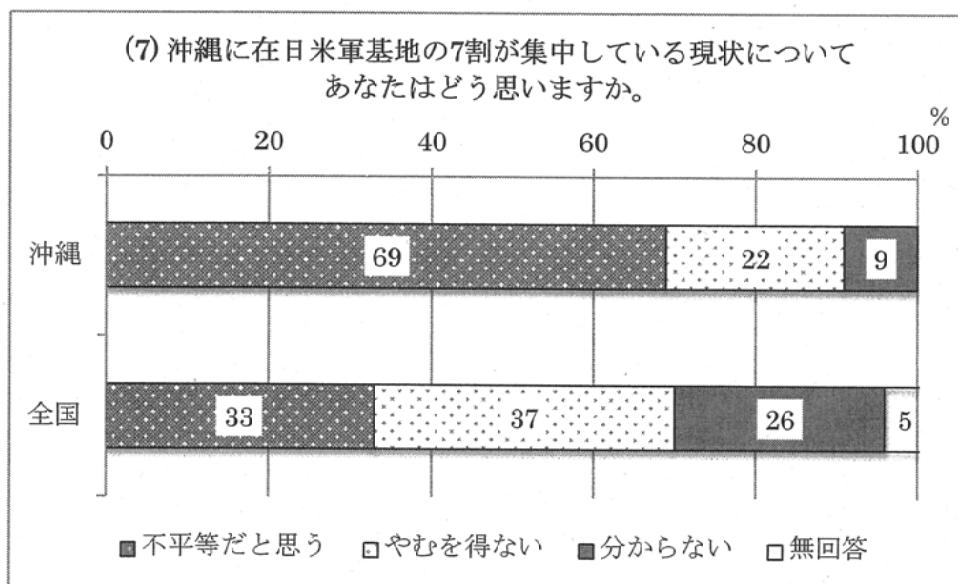
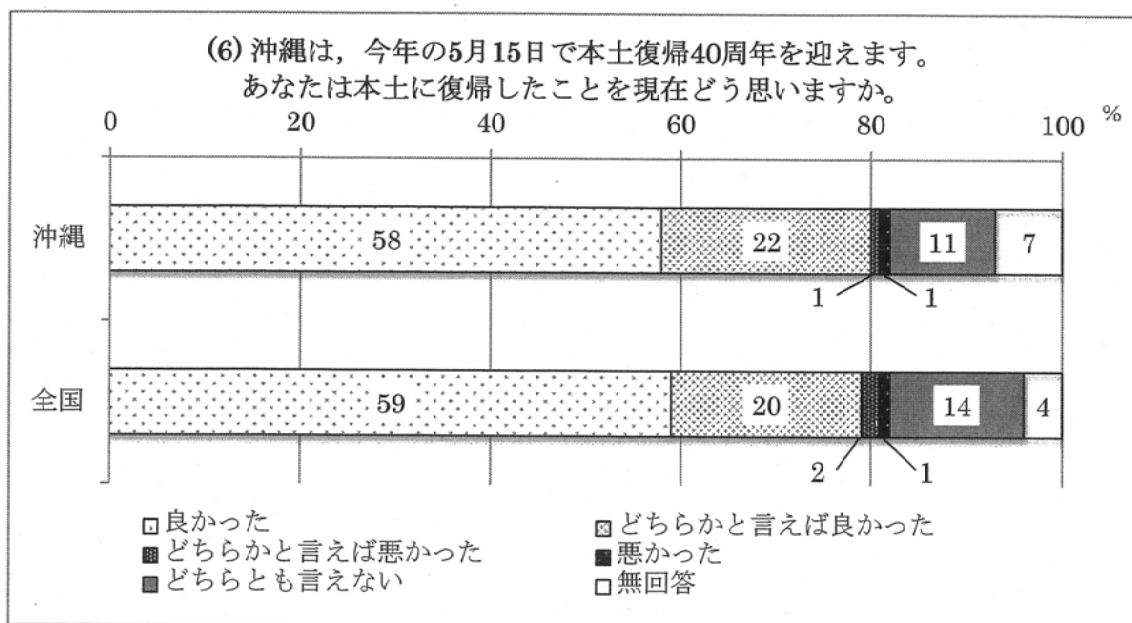


(4) 沖縄と本土には「さまざまな格差がある」という見方があります。その通りだと思いますか。



(5) 本土の人たちが沖縄のことを理解していると思いますか。





* 沖縄タイムス社・朝日新聞社による調査は、2012年4月21日・22日に沖縄県内及び全国の有権者を対象として実施されたもので、沖縄県内調査は有効回答785人・有効回答率59%、全国調査は有効回答1565人・有効回答率49%だった。琉球新報社・毎日新聞社による調査は、2012年5月5日・6日に沖縄県内及び全国の有権者を対象として実施されたもので、沖縄県内調査は有効回答828人・有効回答率59%、全国調査は有効回答1035人・有効回答率66%だった。

沖縄タイムス社・朝日新聞社調査については、『沖縄タイムス』及び『朝日新聞』の2012年5月9日付朝刊の記事を、琉球新報社・毎日新聞社調査については、『琉球新報』及び『毎日新聞』の同日付朝刊の記事を参照した。(1)～(7)のグラフは、これらの記事に記載されたデータにもとづいて出題者が作成したものである。

2

次の〔資料文1〕,〔資料文2〕,〔資料文3〕は,2012年5月15日の沖縄の「本土復帰」40周年の日に掲載された,3つの新聞の社説である。これらを読んであとの問いに答えなさい。

〔資料文1〕朝日新聞2012年5月15日付朝刊社説

※非公開

※非公開

〔資料文 2〕 読売新聞 2012 年 5 月 15 日付朝刊社説

※非公開

〔資料文 3〕 東京新聞 2012 年 5 月 15 日付朝刊社説

※非公開

※非公開

問 1

〔資料文 1〕, 〔資料文 2〕, 〔資料文 3〕 が共通のテーマとしている沖縄の課題は何であることを説明しなさい。(300 字程度)

問 2

問 1 の共通のテーマに対して, 〔資料文 1〕, 〔資料文 2〕, 〔資料文 3〕 はそれぞれどのように主張しているか。その違いを整理し, あなたの意見を述べなさい。(500 字程度)

平成25年度入学試験問題（前期日程）

小論文

教育学部 生涯教育課程 沖縄島嶼教育コース

出題の意図

沖縄島嶼教育コースは、教育学部生涯教育課程のアドミッション・ポリシーに記されているように、沖縄を中心とした島嶼地域について広い見識と専門知識を持ち、シマおこし・まちづくりを担う人材を育てるために、「生涯教育や社会貢献に興味・関心を持つ人」「人々と共に地域貢献に関わりたい人」を求めている。

そこで本コースの入学試験問題は、第一に、基礎的な一般的力量として、資料の読解力と自分の意見を論述する力を問うことをねらいとしている。

第二に、沖縄・島嶼地域をとりまく文化的・政治的・経済的状況やそこに生起する諸問題の基本的なとらえ方と、それらの問題に対する関心度をはかることを意図している。これは、それらの問題に関する知識の多寡ではなく、資料からその問題をめぐって追究すべき論点は何であるかを抽出し、その論点についての自分自身の判断を整理して論述できるかどうかを問うものである。